

仕 様 書

- 1 件 名 未来産業用地開発事業（大堤地区）交通影響検討業務
- 2 履行場所 古河市下大野 2 2 4 8 番地（古河市役所 総和庁舎 プロジェクト推進課）
- 3 履行期間 契約の日の翌日から 令和 7 年 3 月 3 1 日まで
- 4 業務内容
 - （1）計画準備

調査の目的・主旨を把握したうえで、業務計画書を作成し、監督職員に提出する。
 - （2）現況交通状況整理
 - ① 交通調査の実施
 - ・対象施設の半径 2 km 以内にある国道 4 号での主要渋滞箇所：5 箇所
 - ・調査日：平休各 1 日
 - ・調査項目：地点状況調査（朝夕各 3 回（1 時間おき）の信号現示調査含む）
方向別交通量調査（12 時間調査）
渋滞長調査（朝夕各 3 時間調査）
 - ② 現況交通状況の整理

①の交通量調査結果や道路交通センサス、主要渋滞箇所の指定状況、茨城県移動性向上委員会等の公表資料をもとに、対象施設の周辺半径 2 km 程度の現況交通状況を整理する。
 - （3）交通量推計
 - ① 現況データ作成
 - ・OD表は、貸与する H27 センサスベースの BゾーンOD表を基本とし、人口分布、主要施設立地を考慮してゾーニングを見直し現況OD表を作成する。
 - ・ゾーニングは夜間人口等を指標として分割、または統合して作成する。
 - ・H27 センサスを基に、平成 27 年当時に供用している道路網を現況道路網として、現況交通量推計のネットワークを作成する。
 - ② 開発交通量の設定

- ・OD表は、別途貸与する H27 センサスベース（将来令和 22 年）を基に、設定したゾーニングにあわせて本業務用のOD表を作成する。
- ・発注者が指示する利用用途・店舗面積（1 ケース）を基に、「大規模開発地区関連交通マニュアル」や、「大規模小売店舗を設置する者が配慮すべき事項に関する指針」に基づいて、開発交通量（1 ケース）を設定する。

③ 将来データ作成

- ・OD表は、別途貸与する H27 センサスベース（将来令和 22 年）を基に、設定したゾーニングにあわせて、開発交通量を載せて本業務用のOD表を作成する。
- ・推計年次は令和 22 年(2040 年)とする。
- ・本検討対象用路線を追加し、将来ネットワークを作成する。

④ 現況交通量配分

- ・現況ネットワークと現況OD表を用いて交通量配分を行うものとする。
- ・ゾーニングに対応して作成した現況OD表および現況ネットワークを用いて現況再現を実施し、推計交通量とH27 センサス交通量との対比により、交通量推計条件の妥当性を検証する。
- ・この際、（2）での交差点方向別交通量調査結果との整合を図る。

⑤ 将来交通量配分

- ・作成した将来ネットワークと将来OD表を用いて、将来交通量を推計する。
- ・配分ケースは、開発交通量 2 ケース（開発交通量別 1 ケース+開発なし 1 ケース）
- ・ケースの詳細は監督職員と協議する。

（4）交差点解析（静的解析）

- ・国道 4 号での主要渋滞箇所 5 箇所を対象に、（3）④での 2 ケースを対象に需要率計算を実施し、交差点交通処理の問題有無を検証する。
- ・（2）①での休日調査結果も活用し、平日および休日の各ピーク時を検討対象とする。

（5）打合せ協議

- ・業務着手時、中間 1 回、成果品納入時を基本とし、必要に応じ諸条件の確認や調整について発注者と打合せ協議を行う。
- ・また、協議を行った場合には、受注者は速やかに打合せ記録簿を作成し、発注者の確認を受けるものとする。

(6) 成果物

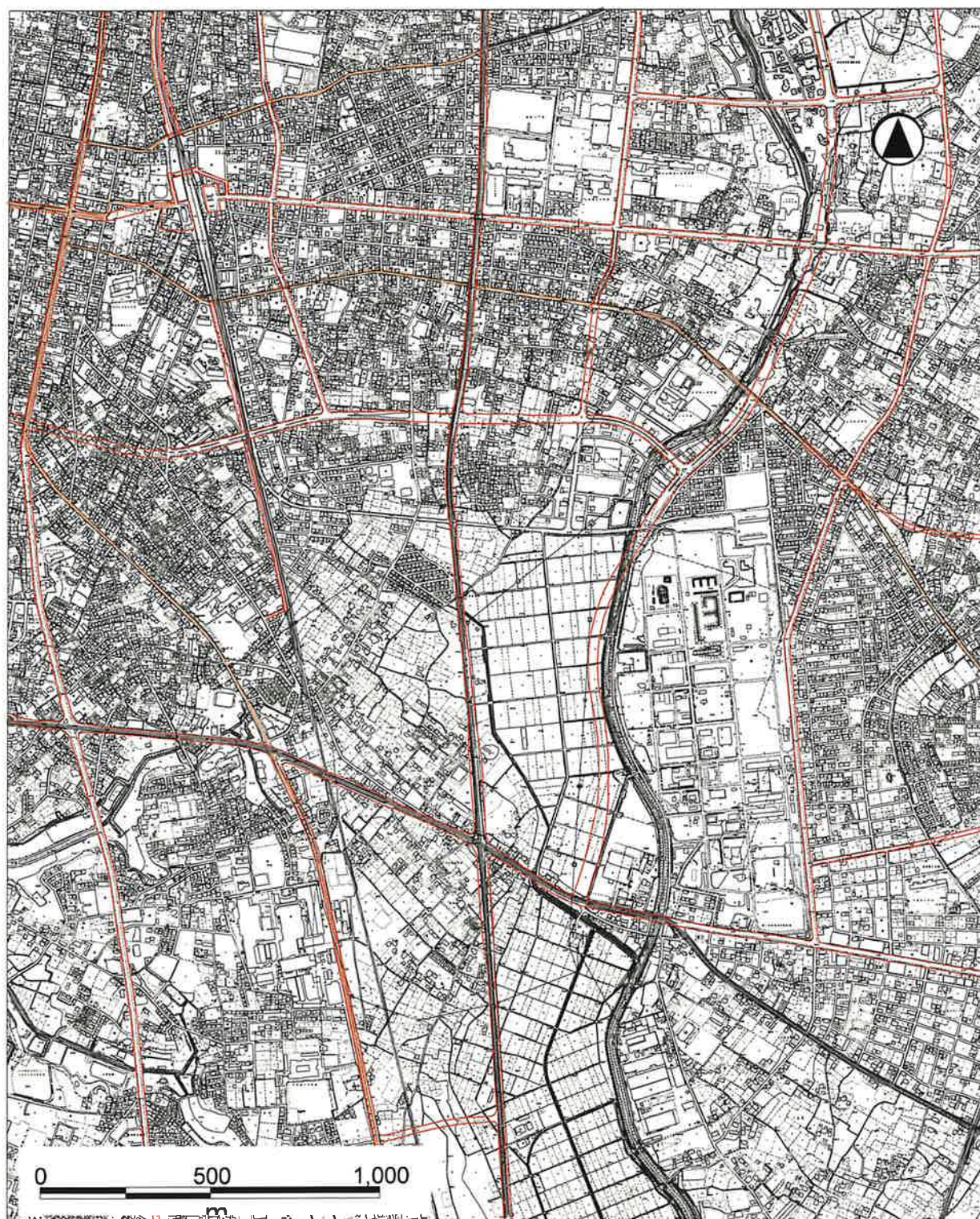
① 報告書 3 部

② 電子データ CD-ROM 1 枚

5 支払条件 業務完了後一括支払い

6 その他 本仕様書等に不明が生じた場合には、速やかに発注者と打ち合わせの上決定し、明記がなくても当然必要となる事項及び、軽微な変更は発注者と打ち合わせの上、受託者の負担において処理する。

参考-都市計画道路との重ね図



凡 例	
	国道
	県道
	計画道路
	都市計画道路
	